
1. 学歴

- 1981年 3月 東京大学経済学部卒業
1985年 9月 マサチューセッツ工科大学経済学部大学院入学
1988年 7月 マサチューセッツ工科大学より経済学博士号取得

2. 職歴・研究歴

- 1981年 4月 日本銀行入行(営業局, 鹿児島支店, 金融研究所勤務)
1989年 11月 - 1992年 11月 国際決済銀行(在スイス, バーゼル)出向
1992年 11月 - 1998年 12月 日本銀行国際局(副調査役, 調査役)
1998年 12月 - 1999年 12月 国際通貨基金(在米国, ワシントン DC)に日本国代表理事代理として出向
2000年 1月 - 2002年 12月 国際通貨基金欧州第一局勤務(局長補)
2002年 12月 日本銀行退職, 国際通貨基金の職員となる
2003年 2月 アジア太平洋局勤務(上級審議役, 局次長)
2008年 1月 一橋大学経済学研究科及び国際・公共政策大学院教授
2010年 4月 国際通貨基金アジア太平洋局次長に復職
2013年 9月 一橋大学経済学研究科及び国際・公共政策大学院教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(b) 大学院

Microeconomics for Public Policy, Financial Sector Reform and Development, Monetary Policy in Theory and Practice

B. ゼミナール

国際・公共政策大学院アジア公共政策プログラム

C. 講義およびゼミナールの指導方針

理論・実証のみならず, 国際通貨基金を含む政策論の現場でどのように経済学が使われているかを生徒に伝えるよう, ころがけている。

4. 主な研究テーマ

金融・財政政策, 構造政策を通じたマクロ経済の安定と成長の促進

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

- "Three Essays on Bank Failures and Optimal Bank Audit Policy", July, 1988. (学位論文)
- 「貸出金利に関する理論的考察」『金融研究』(日本銀行金融研究所), 4 巻 1 号, 1985 年 3 月。
- 「情報活動とメインバンク制」(Kermit L. Shoenholtz との共著)『金融研究』(日本銀行金融研究所), 4 巻 4 号, 1985 年 12 月。
- "Bank Failures and Optimal Bank Audit Policy", *Monetary and Economic Studies*, Vol. 7, no. 1, April 1989, (Bank of Japan, Institute for Monetary and Economic Studies).
- "The Liberalisation of Japan's Financial Markets: Some Major Themes", *BIS Economic Papers*, no. 34, November 1992 (co-authored with Philip Turner).
- "Inflation in East Asian Countries", in *The Asian Financial and Capital Markets: Growth and Interrelationship*, Juro Teranishi and Shin-ichi Fukuda, eds., QRI Research Report 402, October 12 1993.
- 「急激な資本流出入と東アジア諸国の政策対応」(岡崎竜子との共著)河合正弘編著『アジアの金融資本市場: 自由化と相互依存』(日本経済新聞社), 第 11 章, 1996 年 5 月。
- "Usefulness of Private Inflation Forecasts in Inflation Targeting", in *Statistical Implications of Inflation Targeting: Getting the Right Numbers and Getting the Numbers Right* (Proceedings of an IMF Seminar held in Washington, D.C., February 28-March 1, 2002).
- 「国際金融危機後の国際政策協調のあり方」『Business and Economic Review』(日本総研), 2009 年 3 月号。
- 「アジア債券市場の育成について: 回顧と展望」(高安健一, 永野護, 三重野文晴, 長井滋人との共著), アジア金融システム研究会(日本銀行), 2009 年 7 月。
- 「政府系ファンド(SWF)の役割と政策的インプリケーション」日本経済調査協議会調査報告書, 2009 年 10 月 29 日, (主査として執筆)。
- 「資産価格バブルとマクロ経済政策」『フィナンシャル・レビュー』(財務総合政策研究所), 101 号, 2010 年 7 月。
- "Evenhandedness of FSAPs", in *Review of the Financial Sector Assessment Program: Further Adaptation to the Post-Crisis Era—Background Studies*, International Monetary Fund, August 2014 (co-authored with Prof. Hiroshi Ugai).

(d) その他

- India: 2010 Article IV Consultation—Staff Report
- India: 2012 Article IV Consultation—Staff Report; Staff Statement and Supplements
- Australia:2012 Article IV Consultation—Staff Report

B. 最近の研究活動

(b) 国内研究プロジェクト

- 消費税引き上げのインパクトの研究(2014 年秋 -)

7. 学外活動

(d)その他

"IMF's Role in the Global Economy", at the National Economics University, July 8, 2011, Hanoi

「IMFの役割と日本の国際化」東京大学教養学部「グローバル時代をどう生きるかープロフェッショナルが語る新たな可能性」講座, 2011年7月11日, 東京

"External Imbalances: Are We Reducing Them? ", Executives' Meeting of East Asia and Pacific Central Banks(EMEAP), Monetary and Financial Stability Committee, November 18, 2011, Oakland, New Zealand

"Financial Stability in Regional Perspective", Asian Development Bank Financial Sector Forum, February 7, 2102, Manila

「日本の国際化について」お茶の水女子大学「女性リーダーへの道」講座, 2012年10月9日, 東京

"Implications of the Eurozone Crisis for Asian Economic and Financial Stability", at Conference sponsored by the Asian Development Bank Institute on "The Eurozone Crisis and Its Implications for Asian Economics", 2012年10月12日, 東京

金融学会中央銀行パネル, 「デフレ脱却と中央銀行 非伝統的金融政策の効果と限界」, 2013年5月24日, 東京

「アジア経済の変貌とIMFの役割」世界経済調査会, 世界情勢セミナー, 2013年9月18日, 東京

「世界経済の安定と国際通貨基金の役割」, 国際機関シンポジウム「国際機関を知る・学ぶ」, 立命館大学, 2013年11月29日

JICA から受託したベトナム中銀幹部向け研修プロジェクトを実施(2014年4月 -)

特別調査員として, JICA のガーナ支援へのアドバイスを実施(2014年5月)